

2023年7月12日

学校法人三幸学園
東京医療秘書福祉&IT 専門学校
校長 増田 泰朗 殿

学校関係者評価委員会
委員長 小峰 俊一

学校関係者評価委員会実施報告

2022年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

記

1 学校関係者評価委員

- ① 小峰 俊一(青梅市立総合病院 経営企画課 課長)
- ② 橋本 敦(全国医事研究会 理事)
- ③ 田中 正典(がん研究会有明病院 健診センター運営部 部長)
- ④ 鎮目 美代子(株式会社 慶應メディカルサポート 取締役)
- ⑤ 齊藤 貴雄(飛鳥未来きずな高等学校 お茶の水キャンパス 教頭)
- ⑥ 松縄 和彦(社会福祉法人 三幸福社会 理事)
- ⑦ 内堀 雅巳(2022年度卒業生 保護者)
- ⑧ 阿部 佑香(2021年度 卒業生)

2 学校関係者評価委員会の開催状況

2023年6月15日(会場 東京医療秘書福祉&IT 専門学校 本館 901 教室)

3 学校関係者委員会報告

以下「自己評価・学校関係者評価報告書」に学校関係者評価委員会コメントとして記載

以上

2022年度 学校法人 三幸学園 東京医療秘書福祉&IT 専門学校 自己評価及び学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者：副校長 陶山 毅

学校関係者評価報告責任者：学校関係者評価委員会委員長 小峰 俊一様

1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、医療分野の学校として「医療現場で医療事務・診療情報管理を通じて日本を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。

また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、医療分野として「相手のこうしてほしいを理解し、考え続ける人材」を育成する人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

2. 前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

① 前年度重点施策振り返り

○教務

・業務効率化及び情報発信などを円滑化する為に ICT を推進。複雑な時間割作成に自動作成システムや Microsoft Teams を活用し、業務効率を図る。また生徒との情報発信・連絡ツールとして Googleclassroom に加え、メールでの連絡も併用可能とした。

○就職

・例年、卒業間近まで内定を頂くことが難しい生徒に保護者に連絡をし、状況報告・ご家庭での協力を仰いでいた。そこで就職活動に困難をきたし、よりサポートが必要な生徒は早期から保護者とも連携を取り合いながら就職支援の斡旋を行う必要があると考えた。そのようにすることで保護者から生徒への声掛けや協力により、保護者・生徒が希望している就職が可能になる。また、自校に頂ける求人票を全国の姉妹校で公開することで、姉妹校の生徒にも首都圏の大手医療機関に就職することが機会を与えられる。

○広報

・入学者数の増員を目指し、在校生スタッフの募集・育成を強化。

② 学校関係者評価委員会コメント

特になし

3.評価項目の達成及び取組状況

(1)教育理念・目標

【評価項目】(評価=適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか(専門分野の特性が明確になっているか)	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	4
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4

① 課題

・保護者の連絡

現状、毎年 3 月中旬に実施する新入生オリエンテーション時に学校の理念・目的・育成人材像等を伝えているが、入学後は伝える機会を設けていない。また保護者への連絡は出欠状況が悪い等、生徒に何かあった場合の連絡のみに留まっている。

② 今後の改善方策

- ・4～6 月の期間で全生徒に保護者へ連絡を入れ、学校生活の様子を共有する。
- ・日本医療秘書学会で賞を受賞した等、生徒が活躍した際も連絡を入れる。
- ・進級学年には 2 月の教材発送する際の書面に理念等を記載する。

③ 特記事項

- ・時代のニーズから WEB デザイン・IT 科の新設や医療秘書科のコースの見直しを検討した。

④ 学校関係者評価委員会コメント

- ・病院の理念や目標は毎年変わるものではないため、浸透を促すために院外向けの広報誌やホームページを活用している。(橋本委員：医療秘書科・診療情報管理士科について)
- ・保護者連絡の頻度としては問題ないと感じた。在学中、成績通知表と一緒に学校の様子がわかる発信があるとより良かったと感じた。(内堀委員：診療情報管理士科について)
- ・今年度は各担任より保護者への連絡を増やし、より保護者が学校生活の様子を想像できるように発信をする。(古澤さん：全学科について)

(2)学校運営

【評価項目】(評価=適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
人事、給与に関する制度は整備されているか	4
教務 財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4

① 課題

- ・現状の人事制度は専門人材が活躍できる制度が少なく、より専門人材が活躍できるように環境整備をする必要がある。
- ・Wi-Fi が弱くネット環境が要因となり、業務推進への影響や授業の進行が遅れることがある。

② 今後の改善方策

- ・2024 度に向けて人事制度の見直しがされる予定。
- ・2023 年度始めに全教室の Wi-Fi の電波を強化し、以前よりネット環境が改善された。

③ 特記事項

④ 学校関係者評価委員会コメント

・病院でも人事評価を全職員対象で実施している。より活躍できる環境を用意できるように、職員たちの意見を聞き、評価と併せて適材適所に配置されているかを見直している。また適正に評価されているのかを自己評価と他己評価の両面からみて人材育成を行っている。これが人事制度の見直しにもつながっているように感じている。(小峰委員:医療秘書科・診療情報管理士科について)

(3)教育活動

【評価項目】(評価=適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	4
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	3
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
資格(免許)取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか	4
関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含め)の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	4
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4
職員の能力開発のための研修等が行われているか	4

① 課題

・各医療機関及び企業を招待して評価を受ける機会が少なかった。

② 今後の改善方策

- ・教育課程編成委員会のメンバーとして日本医師事務作業補助者協会理事の方にもご参加頂き、医師事務作業補助者のカリキュラムについてご助言頂いた。
- ・7月25日(火)に採用合同説明会・面接練習会を校内で実施予定。(18社の医療機関にお越し頂く予定)
- ・シミュレーション大会は臨機応変な接遇ができるかを審査して頂くよう、予め接遇内容を知らない状態で臨むような内容に変更した。

③ 特記事項

④ 学校関係者評価委員会コメント

・昨年度、シミュレーション大会の審査員として参加していた。実習期間中に気になったことをテーマにしているチームが多く、経験したことを振り返り改善策を考え、実践できることは社会人になってからも役立つと感じた。1点気になったこととしては、ホスター掲示の評価ポイントの中でホスター作成をするにあたり学生自身が工夫した点が評価者にも分かるようにしてほしいと感じた。(阿部委員：医療秘書科について)

・今年度のシミュレーション大会については、病院で起こり得る様々な事例に対し、臨機応変な対応が求められることを念頭にテーマを考え、当日まで生徒たちがやる対応が分からないようにしている。授業でも様々な対応を練習する必要があるがより実践的な対応が身に付くと考えている。(古澤さん:医療秘書科について)

(4)学修成果

【評価項目】(評価=適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
就職率の向上が図られているか	3
資格(免許)取得率の向上が図られているか	2
退学率の低減が図られているか	3
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

① 課題

- ・就職率の向上を図ることを目的とした新しい施策を行えていない。
- ・資格によって合格率に差異がある。
- ・卒業生に向けて求人のご案内等のサポートができていない。

② 今後の改善方策

- ・新しい施策として校内合同説明会を実施することで就職率の向上を図っていく。
- ・検定強化委員会を設置し、合格率向上に向けて動いていく。
- ・卒業生向けのLINE やネットワークサイト「三幸 LINK」を通じ、定期的に現状を把握できるアンケートを実施しサポートへ繋げる。

③ 特記事項

④ 学校関係者評価委員会コメント

・就職率向上へつなげる為にも病院で実施する就職説明会への参加を推奨する。実際に病院へ来てもらうことでエントリーシート等がより具体化できると感じている。採用側としても当院で働いている姿や将来像もイメージしやすくなるため、採用のハードルが下がり、就職率向上に繋がると感じた。(田中委員:医療秘書科・診療情報管理士科について)

・当施設ではエントリーシートの提出を現在求めてはいないが SNS が発達している中で、個人的なアピールと社会的に求められているものをしっかりと棲み分け、自分の強みを伝えないといけないのではと感じた。企業が求めることを理解しアピールすることを必要とする。SNS を扱う世代だからこそ採用側とのギャップを埋めるための指導が必要だと感じる。(松縄委員:介護福祉科について)

・医療事務員としての志望動機は将来の希望や夢を書くといいと感じる。理念等の暗記できるような定型なことを暗記してくる学生が多く、これまでどういう学生生活を送ってきたのか、どういう人柄なのかが作文やエントリーシートなどを通してイメージつくと就職へと繋がりがやすいと感じる。(鎮目委員:医療秘書科・診療情報管理士科について)

・在学中に感じたことは、資格取得に向けて分厚い教材の中からポイントを伝えてもらったことで多くの資格取得ができたと感じた。またクラスの雰囲気良く、教えあうクラスだったため、自身の理解力も向上したと感じた。(阿部委員:診療情報管理士科について)

- ・通信制高校は毎日通う事が第一ステップ、少しずつ課題を与えていき、スモールステップを踏んでもらうことで自信を

つけてその先で資格取得率の向上に繋がると考える。(齊藤委員:医療秘書科・診療情報管理士科について)

・在学中、1年の時のモチベーションが低いことを心配していたが先生の日々の声掛けがモチベーション向上に繋がり、2年生からモチベーションが上がったように思えた。断片的ではなく継続的に声を掛けてもらうことでモチベーションが上がる生徒も多いと感じる。(内堀委員:診療情報管理士科について)

・入学前の理想と入学後の現実のギャップがどんな理由であるのか分析することで退学率の減少に繋がると考える。(小峰委員:医療秘書科・診療情報管理士科について)

・退学率を減少するためには理想と現実のギャップをうめること。しっかりと教育プログラム整えておきゆとりをもち、本人が自己肯定感を高められることや自信を持てるなどの期間や機会が十分にあると退学率は減少すると考える。いずれにせよ時間をかけて伝えていく必要があると感じている。(松縄委員:介護福祉科について)

・卒業後のサポートとしては、校名変更なども卒業生に伝える場があると足を運ぶきっかけになると感じた。(阿部委員:診療情報管理士科について)

・退学率はコロナ禍であった2021年度より2022年度は減少しているが、より減少していく必要があるため生徒の自己肯定感を高めることやギャップを埋めることなど取り組みをしていく。就職率に関しても昨年度まで継続して100%ではあるものの業界内就職をさらに向上させるために校内での採用合同説明会など施策を打ち出す。(古澤さん:医療秘書科・診療情報管理士科について)

・圧倒的に高卒求人も増えてきており、7月から就職希望の高校生が動き始めるが、コロナ禍からの圧倒的な変化があり、就職フェア等も開催されてきており、コロナ前に戻ると予想される。(齊藤委員:医療秘書科・診療情報管理士科について)

(5)学生支援

【評価項目】(評価=適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
学生相談に関する体制は整備されているか	4
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
課外活動に対する支援体制は整備されているか	4
学生の生活環境への支援は行われているか	4
保護者と適切に連携しているか	4
卒業生への支援体制はあるか	3
中途退学者への支援体制はあるか	3
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4

① 課題

・教員の経験によって生徒の支援体制に差が出ている。その為、学校生活や就職活動の斡旋にも影響している。

② 今後の改善方策

- ・生徒対応で教員の経験によって差が出やすい場面(生徒面談・学校行事の動機付け等)を想定し、担任会議にてデモンストレーションを実施し、どの教員からも同等の支援ができるようにしていく。
- ・年に一度実施されるサマ-セミナーでは、三幸学園の教員が一堂に会し、分野ごとの研修にて知識を習得していく。
- ・第2回全体会議では、当校の全教員の教務力向上を目指し、外部講師による研修を実施していく。

③ 特記事項

④ 学校関係者評価委員会コメント

・教員の経験によって支援体制に差が出てきてしまうのは当然のことなので、一定の期間を設けてベテラン教員とバディを組んでもらい指導すべきだと考える。また生徒の生活や環境記録で家庭構成等を理解することから始める。生徒に既往歴、特性等も事前に情報を知っていることで生徒への対応が変わると思っている。

(齊藤委員)

・卒業生への支援体制の中で、病院と就職担当との繋がりを活かして卒業生へ向けての求人募集等も積極的に開示し支援できるように実施してほしい。(田中委員:医療秘書科・診療情報管理士科について)

・多くの病院で障害者枠での採用を進めている。在校生・卒業生の中でも支援体制があると良いと感じる。

(鎮目委員:医療秘書科・診療情報管理士科について)

・まず教育体制に関しても通信制の生徒が増えている現状もあるため、保護者、高校とより関係を深める必要があると感じた。さらに卒業生支援についても現在 LINE やネットワークサイト「三幸 LINK」といった媒体を使って繋がりを強化しているため、卒業生への発信など今後実施する。(川畑副校長)

(6)教育環境

【評価項目】(評価=適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4
防災・安全管理に対する体制は整備されているか	4

① 課題

なし

② 今後の改善方策

なし

③ 特記事項

なし

③ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(7)学生の受入れ募集

【評価項目】(評価=適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
入学選考は、適性に行われているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

① 課題

なし

② 今後の改善方策

なし

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(8)財務

【評価項目】(評価=適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

① 課題

【中長期計画】

なし

【予算・収支計画】

なし

【会計監査】

なし

【財務情報の公開】

なし

② 今後の改善方法

【中期計画】

今期は第2次中期計画(2018年度~2022年度)の達成状況等の公開と同時に、第3次中期計画(2023年度~2027年度)を公開する予定である。

【財務情報の公開】

なし

③ 特記事項

なし

④学校関係者評価委員会コメント

特になし

(9)法令等の遵守

【評価項目】(評価=適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
自己評価結果を公開しているか	4

① 課題

なし

② 今後の改善方策

なし

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(10)社会貢献・地域貢献

【評価項目】(評価=適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	4
地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか	4

① 課題

・コロナ禍に伴いボランティアや産学連携の機会が減ったので、地域貢献の機会を新たに検討する

② 今後の改善方策

・社会貢献できる生徒の育成を目標にボランティア委員会を設定した。

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

・専門的な知識や資格がなくてもできるボランティアは沢山あるが、生徒のモチベーションを考えるとイベント等のボランティア活動の方が好ましいと感じる。(松縄委員:介護福祉科について)

(11)国際交流(必要に応じて)

【評価項目】(評価=適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
留学生の受入れ・派遣について戦略を持って国際交流を行っているか	4
受入れ・派遣、在席管理等において適切な手続き等がとられているか	4
学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	4
学内で適切な体制が整備されているか	4

① 課題

なし

② 今後の改善方策

なし

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

- ・2022 年度の自己評価の報告に対して、委員の方々から承認をいただいた。
- ・2023 年度も引き続き、教育理念である「技能と心の調和」を念頭に教育や人材育成を行う
- ・委員会でいただいたご意見を実施へ繋げるために計画を立て、現場で活かせる知識や技術の提供について強化する。
- ・在校生の退学防止、卒業生との繋がり強化等ご意見いただいた対策案を今後の学校運営に活かす。